

文化財保護課・TEL224-6097

古瀬戸鉄釉平碗

古瀬戸鉄釉平碗は、川越城跡の発掘調査で出土した茶碗です。

この茶碗が作られたのは、今から約五百五十年前の室町時代の半ばごろ。現在の瀬戸市周辺の登り窯で焼かれた物と思われます。茶碗の口の直径十五・四センチ、底の直径四・五センチ、高さ五・四センチで、一部欠けていますが、手に取るとずしりと重く、両手に余る大きさです。形は口の下の部分でゆるくくびれ、茶道で用いる天目茶碗と似ていますが、平たい印象を受けます。釉薬は、鉄分を多く含んだ泥水を化粧掛けしたあと、漆黒の鉄釉を施します。鉄釉は全面ではなく、まだらに掛かっています、それがこの茶碗の見どころの一つとなっています。また、鉄分を含んだ泥水で化粧掛けするのは、この時代の天目茶碗の特徴で、当時の陶工たちが手本とした中国建窯の天目茶碗をまねようとしたものです。

この茶碗が出土したのは、市役所から市立博物館へ向かう道路と県立川越高校から氷川神社へ向かう道路が交わる交差点の辺りです。出土地点の傍らには、小田原の後北条氏が川越城にいた際に造られた道が東西に走り、小田原産の手づくねかわらけや金ばくかわらけなど城主



出土したときの様子



古瀬戸鉄釉平碗

やその一族が使った器物が出土しています。それでは、この茶碗は誰が使っていた物なのでしょう。想像は大きく広がります。

市税納期のお知らせ

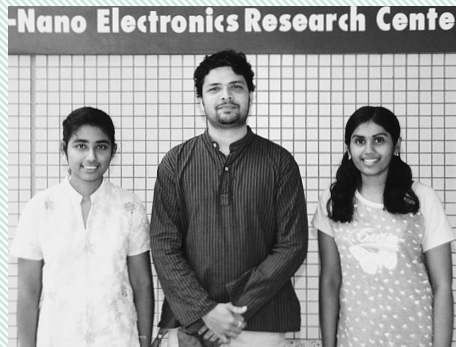
8月は、市県民税第2期・国民健康保険税第2期の納期です。忘れずに納めましょう。

問い合わせ…収税課収税管理担当
TEL224-5686

どんぐり

編集後記

広報室には、月2回職場に「嵐」がやってきます。嵐とは、広報川越の原稿を印刷業者に渡す出稿日のこと。出稿日前の数日は何度も文章や写真で悩みながら、仕上がりのチェックを重ねていきます。市民の皆さんにより親しまれるよう、試行錯誤を繰り返して完成する広報紙。嵐の去ったあとには、次号の編集作業を進めています▶子どもたちの夏休みも残りわずか。いよいよ宿題も追い込みです。ここを乗り切り、2学期を笑顔で迎えましょう。(KI)



世界の国から
こんにちは!



インド/シャイン・ハンナ・ワルギスさん、バイジュ・ネアさん、レソミヤ・ネアさん

私たちは、南西にあるケーララ県の出身です。ことしの4月に来日しました。3年間滞在し、川越の大学でナノテクノロジーの研究をして、博士号を取るのが目的です。

インドはヒンディー語が公用語ですが、学校では英語を使います。また、国内にはおよそ20の言語があります。そのため、インド人は3つの言語を使うことができます。

日本に来て4か月がたち、生活にもだいぶ慣れてきました。クリアモールにいろいろな店があるのもおもしろく、気に入っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは17ページ・23ページ、相談は26ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506